

令和3年度 防衛大学校入校式
中山 防衛副大臣訓示

本日、ここに防衛大学校本科及び研究科の入校式が挙行されるにあたり防衛副大臣として一言申し上げます。

新入生みなさん入校おめでとう。

本日、この佳き日を迎えられたことに心からお祝いを申し上げます。本科入校生の皆さん。皆さんは、今、それぞれに高い志を持って、この防衛大学校の門をくぐりました。その初心を忘れることなく、これから4年間、ここ小原台において、規律正しい集団生活をおくり、学業と訓練に一生懸命励んでください。

この間、様々な困難に直面し、また、不安や戸惑いを感じることもあると思います。そのような時には、久保学校長をはじめとする防衛大学校の教職員、学生生活を共にする先輩たち、そして何よりも、本日から仲間になる同期の存在が、必ずや心の支えとなり、困難を乗り越えられるはずです。

研究科入校生の皆さんが取り組むべき課題は、我が国を取り巻く安全保障環境の変化とともに、多様化、複雑化しています。皆さんにおかれては、これらの対応に必要な専門的知識の修得はもとより、自衛隊への国民の高い期待と厚い信頼に対し、いかにして応えていくか、国民を守るために、今何をなすべきか、常に自問自答し、自衛官として真にあるべき姿を見極めていって欲しいと思います。

留学生として来られた皆さん。防衛大学校への留学を、心から歓迎いたします。言葉や食事、普段の生活など、生まれ育った母国とは異なる環境に、とまどうことも多いかと思いますが、この防衛大学校の仲間とともにその困難を乗り越え、ここで学んだことを活かしてそれぞれの国で活躍する人になっていただきたいと思います。そして、一人一人が、母国と日本との友好の懸け橋となってくれるよう期待します。

戦後最も厳しいと言っても過言ではない安全保障環境の下、防衛省・自衛隊は国民の命と平和な暮らしを守り抜くという重責を担っております。「平和」は決して他人から与えられるものではありません。我々の手で勝ち取るものであります。自らの手で自らを守る気概なき国を、誰も守ってくれるはずがない。安全

保障政策の根幹となるのは、我が国自身の努力ほかなりません。国民は、ここに
いる皆さん一人一人に高い期待を寄せています。自衛隊の役割をどう考えるか、
国民の信頼と期待をどう受け止めていくか。防衛大学校での学びを通じ、それぞ
れの立場で探求していただきたいと思います。

その際、心がけていただきたいことがあります。それは、今、そしてこれから
の安全保障を考えるにあたり、これまでの「歴史」によく学ぶこと、そして我が
国、インド太平洋地域、そして国際社会全体という「地政学」の観点から物事を見
るということであります。将来、自衛隊の中樞を担う皆さんには、常に「時間
軸」と「地政学」の観点を忘れずに戦略を考え、それを遂行する強い意志を持っ
た幹部自衛官になっていただきたい。そのための基礎を、ここ防衛大学校でしっ
かりと作っていただくようお願いいたします。

御家族の皆様、並びに日頃から防衛大学校そして防衛省・自衛隊に対し、多大
なる御理解・御協力を賜っております国会議員の皆様、協力団体や神奈川県・横
須賀市をはじめとする地元自治体の皆様、優秀な若者の留学に御尽力をいただ
いた各国国防関係の皆様。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、本入
校式に御出席いただくことは出来ませんでした。この場にて深く感謝と御礼
を申し上げます。

最後になりますが、久保学校長はじめとする教職員には、学生の皆さんが生涯
で最高に価値があると確信するであろう教育、そして、情熱と愛情に溢れた訓育
と指導を行うことをお願いするとともに、ここにいる入校生の皆さんがこの防
衛大学校でよく学ばれ、今後大いに活躍されることを祈念し、私の訓示といたし
ます。

令和 3 年 4 月 5 日
防衛副大臣 中山 泰秀